

## 令和3年度第1回福島県生涯学習審議会議事録

1 日 時 令和3年9月16日(木) 13:00～15:15

2 場 所 中町ビル 2階大会議室

3 出席者 別紙名簿のとおり

### 4 議 事

- (1) 新たな福島県生涯学習基本計画の施策体系の検討について
- (2) その他

### 5 内 容

(1) 開会(司会 橋本生涯学習課主任社会教育主事)

(2) 挨拶

① 小笠原文化スポーツ局長

② 木暮生涯学習審議会会長

(3) 新委員自己紹介

(4) 定足数確認

○ 事務局より

福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により、委員は15名であり13名の出席、定足数(過半数)が出席し、審議会が成立することを報告。

(5) 議事録署名人選出

○ 議長の氏名により、熊ヶ谷頼子氏、千枝浩美氏が選任された。

(6) 諮問

○ 福島県知事より生涯学習審議会会長へ諮問書の交付。

(7) 新たな福島県生涯学習基本計画の施策体系の検討について

○ 事務局(渡邊生涯学習課長)より

① 基本目標について

② 人生100年時代を生きる学びの推進について

③ 地域づくりにつながる学びの推進

④ 震災の記憶と教訓の伝承

⑤ 社会の変化に対応した学びやすい環境づくりの推進

○ 上記の件に関し説明し、以下の質疑等があった。

#### 【木暮照正会長】

目標の案1に関しては生涯学習社会ふくしまがかぎ括弧つきである。案2・3に関しては、かぎ括弧が付いてない、これに関しての回答がない。これは、形式上そうなっているだけで、案1は文章式なのでこのほうが読みやすい、案2は語句が並んでいるので、括弧をつけなくても分かるだろうという、形式上の問題と思っている。何かニュアンスや意味内容が異なるということなのかという趣旨の質問もあったようなので、その点についてお尋ねしたい。

#### 【生涯学習課長】

目標の案1の生涯学習社会ふくしまに括弧をつけているのは、文章表現なので、そこを強調するような形で括弧をつけた。案2は、フレーズ形式にしているので、括弧をつけない表現にした。形式的な、表現の問題としてこのようにしている。

#### 【生涯学習課長】

推進施策1について、資料4の3ページの14番「生きがいの発見と創出という文言が必要ないか」、16番「中高年の引きもこもりの問題」、17番「スポーツ・文化・アート活動」、そういった個別に様々な意見をいただいている。そういったところから、生涯学習の間口の広さや非常に幅広いのが生涯学習ということも言える。計画の本文中にしっかりと書き込む、位置づけるという形で対応したいと考えて

いる。今回、この意見全般について、なるべく皆様の意見は本文中に書き込み、その計画の趣旨に沿って生涯学習を推進していくという流れで、皆様の意見を採用させていただきたいと考え回答している。

#### 【安齋睦男委員】

事前に意見照会をいただき、なおかつ期間のない中で内容を精査していただいた。そういう意味ではかなり練られた形の案になってきていると感じている。柱立てについて、やはり震災の記憶と教訓の伝承という3番の柱は、福島県ならではの生涯学習の計画として、ここは大きく独立させて記載をしていただいたほうが良いと考えている。こういう経験をした福島県だからこそ、しっかりと伝えていけると思っているので、そこは大きな柱として掲げていく必要があると考える。

SDGsでは、私ども社会福祉協議会でも活動推進計画を最近策定した。SDGsについて、それとの関連を明示した上で計画を策定した。計画の本文の中の計画策定の背景に、SDGsとの関わりについての記述を加えた上で、それぞれの推進項目ごとに、SDGs項目のどこの部分とつながりがあるのかを、記載はしないまでも、番号的なものを計画の中に触れたりして、SDGsとの関わり合いをしっかりと持ちながら進めていくというところを、読んだ方に伝わるよう工夫をしている。そういう何らかの形でSDGsについて計画本文の中でも、どういう関係でこういうものになっているかというところを記述しておいたほうが良いのではと感じた。

#### 【生涯学習課長】

資料4の1ページ1番の意見の3行目以降、「東日本大震災原発事故から10年が経過しても、今後とも困難な課題に立ち向かわなければならない福島県にとって、県民一人一人が生涯学習に取り組むことが意味のあるものであることを強くアピールするものであってほしい」というところに、事務局としても非常に心を強くした。直接的に3番の柱を立てることよりもっと広い概念かと思うが、そういった考え方で検討を進めていきたい。

また、SDGsに関しては、県の総合計画のほうでもそのような形で載せているので参考にさせていただく。

#### 【大川哲生委員】

課長から生涯学習は非常に間口が広いという話があったが、資料を読ませていただくことで、確かにいろいろな施策とも絡んで、いろいろな面を持っており、幅広い分野にまたがっていることを本当につくづく感じた。推進施策1にしても、そういった面で非常に幅広い。生涯学習のこれから果たしていくべき役割というところで出されていると思うが、コアの部分でやっている人たちに対して、何らかの形で応援しているというようなところを、基本計画の中に織り込んでいただけるとありがたい。確かに、今の時代、生涯学習として取り組まなければならない施策という面があるので、あえて狭くするのはないが、今生涯学習に一生懸命取り組んでいらっしゃる方たちを何らかの形で後押ししていただけるような、そういった部分が感じられるような基本計画であっていただけると非常にありがたい。

SDGsに関して、今の時代、この時期に、基本計画を立てるということであれば、全く関係ない部分という形ではあり得ないが、逆にあまりにも、何でもかんでもSDGsのような感じもする。当然、SDGsと切り離せない部分というのはあるが、あまり全面的に出さなくてもいいのではないかな。ある程度、当然本文の中でもそういった部分が関連したものになると思うが、あまりSDGsを前面に出した基本計画でなくてもいいのではと個人的には感じている。

基本目標は、象徴的なものに関していうと、多数決や皆さんの意見を多く取り込む等をしない方が、いいものができるようなことが多いのではないかな。個人的な意見だったら別だが、誰かがどんと決めるような、少し言い方が乱暴だが、独善的な部分があったほうが、ある程度メッセージ性があるものになるような気がする。今いただいたこの目標は、今の時代に、ずれているといった感じではないと思うので、どれであってもいいと思う。あまり皆さんの意見を取り込むとかではないほうが、こういったものに関しては、いいものができるのではないかと感じている。ただそういった中で、個人的には案3のメッセージ性が強いと思う。ちょっと文法的に間違いかもしれないが、地域が輝くのほうが個人的にはよい。学び合い、支え合いで、何で輝きなのか分からないが、輝くのほうが、訴えることができるような気がする。

#### 【木暮照正会長】

もちろん御意見として承るが、事務局から今の段階で、手短かにコメントできることがあればいただきたい。その前に基本目標の決め方について最後に触れられていた。

決め方は特に、私なり事務局なりでこうしようと思っているものはない。まさに皆様からの御意見案にまず、事務局から修正提案を今回出しているの、これを踏まえて皆様から御意見をちょうだいするということである。特に決め方に関して何かこうしようという腹案があるわけではない。ただ多数決をとると大体ぼんやりとしたものになるので、キャッチコピーみたいなものは専門家に任せて、あとはその中から最終段階で関係者が選ぶというやり方もある。確かに御指摘のとおり、みんなでこれがいいと多数決をとるとぼんやりすることはある。今のような大川委員からの決め方に関する御提案は、確かに一理ある。

#### 【生涯学習課長】

1点目の生涯学習をコアにやっている方を後押しする計画にしたいということについては、しっかりと計画の中でうたっていきたい。目標案については、確かにいろいろな意見をまぜるとぼやけてしまうことは当然あると思うが、今日改めてもう一度御意見を伺いたい。傾向として案2、案3に対しての指摘が多かったことも参考にさせていただきながら、改めて意見を伺いたい。

#### 【熊谷頼子委員】

基本目標の中で、次世代へつなぐという文言を入れたことで、基本施策の未来に向かっての明るいイメージがわき、とても良いと思う。

推進施策3の「震災の記憶と教訓の伝承」は、福島県としては非常に大きいことであるので、常に意識をもって進んでいくためにも、この項目はやはり必要だと思う。私の住んでいる南会津は、実際のところそれほど大きい被害もなく、ただ、風評被害等があったが、生活していく中ではあまりそういうことを感じる事が少ない現状がある。やはりこういう中に大きく銘打って、事あるごとに、こういう文言が目に入ってくるということは、10年後20年後もその意識をもっていくためには必要だと思う。

推進施策4の「社会の変化に対応した学びやすい環境づくりの推進」について、ICTのオンラインを使った事業というのは、これからどんどん進んでいくと思う。受ける側と環境整備が非常に大切になってくる。施設としては、オンラインに向けた対応が出来てないところがまだまだあるので、充実した施設をこれからどんどん作ってほしい。

推進施策1の「人生100年時代を生きる学びの推進」で、「(2)若い世代の生きる力を育む」のところで、特に子供たちに対して、オンラインばかりではなく、いろいろなことを実際に体験するという学習が子どもの成長には絶対に必要なことで大切なことだと思う。それについても、計画の中でしっかり明記して、大切に育てていくようにしたい。推進施策の中に具体的なものも入ってくると思うので、その中でしっかり位置づけていただけたらと思う。

#### 【佐々木吉晴委員】

斎藤清も含めて美術品は、体験することを主に鑑賞と言うのが、鑑賞というのはいろいろ目的がある。癒やしであったり発見であったり、時には学びということも含まれてくる。生涯学習そのものに深く関わるものだと思う。意見を書いたときには気づかなかったが説明を受けて聞いているうちに、読書という言葉はあるが鑑賞という言葉がないと気づいた。もし可能であれば、推進施策1「(2)④読書に親しむ活動の推進」とあるが、読書と同じように重要なので、読書や鑑賞等、何かそういうことを入れていただければ大変ありがたい。

#### 【佐藤義孝委員】

意見や質問に対して、丁寧に回答いただくなど本当によく考えられた内容である。

目標に関して、説明をいただいたが、本当に甲乙つけがたい内容であり、本当に自分たちとしてこういうことをやりたいというものがあつたら、次回に出していただければ、それに賛同できると考えている。

全国公民館連絡協議会と明治安田生命で協議をした、明治安田生命が進めるSDGsを基にした社会貢献というのものが、公民館を活用した社会貢献をしたいという相談があった。福島市は明治安田生命と包括協定を結び、明治安田生命から健康や老後に関わるメニューや講師を派遣していただくということを、進めているところである。

SDGsはぜひとも掲載していただきたいと思うが、一般的なSDGsは内容が複雑というか分かりにくく、よく分からないことがある。記載される場合には、こちら側からSDGsに主体的に取り組むものと、SDGsに関することをやりたいという人に対して受け皿として出来ることを具体的に記載していただけると分かりやすいのではないかと思います。

#### 【生涯学習課長】

SDGs そのものの普及と同時に、明治安田生命など民間でもいろいろ行っているの、計画の中では、推進施策4「(3) 関係機関等の連携強化の様々な主体との連携による学習機会の充実」にも関わってくる議論かと思う。SDGsに関する活動も促進できるよう考えていきたい。

#### 【吉田幸代委員】

県内には11のユネスコ協会があったが、震災で三つ休会している。福島ユネスコ協会の会長が、県の連絡協議会の会長をしていたが、その方が一昨年に急逝され、副会長で県に来ていた関係で今、私が県のほうも会長をやらせていただいている。40年近く活動を地道にやっている方がいる。今のSDGsは、ユネスコから私たちへの課題でもある。

今取組をしているが、実際今までやってきたことが、SDGsの活動になっている。ただ、SDGsと言われたり、テレビにもどんどん出てきたりすると、やっぱり分からない方がたくさんいる。新しく取り組まなければならないという姿勢ではなく、続けていくことがSDGsにつながると考えてもらおうと浸透するのは早いと思う。

この資料を見せていただき、よく検討していただいた資料であると痛感させられた。これだけのものをまとめていただくのは大変なことだと思う。

私の年から考えても、このITに対しては、発信側と受け入れる側の格差がある。学校は、国の施策でどんどん対応できる形が出来ているが、一番出来ないのは家庭である。ユネスコも個人の会員なので、それが集まって全部が対応できるかという、それは出来ない。ユネスコでは、集まれる場所をすぐに立ち上げた。今その集まるのが大変で、5人以下で、会議をやらなければならない。それでも、公民館等を使いながら全国、東北圏内の対応をしている。それもすぐやらないと間に合わなかったの、その対応をぜひ考えていただきたい。学校はすばらしい。どんどん子供たちも積極的にももしろがってやっていて、すばらしい。追いついていないのは私たち一般人で、特に主婦は普段そういうものとの縁がないので振り回されている。

私は医療機関に従事しているので、対策のために最先端に行くような仕事を毎日している。その手当てをしっかりとっていただきたい。これはお願いしても仕方ないことと思うが、やっぱり県からもそれを発信してもらいたい。発信する場はいろいろ進んできている。受け入れる場が進んでいない。そのことを、ぜひ対応していただきたいと思う。

震災の件が出ているが、福島県は特に原発の被害を受けているので、絶対に入れていただきたい。私の年代になると、戦争のことを知っている方がいなくなっている。国を動かしている政治家たちも分かっていない。10年たつと、日本の子供たちも分からなくなっている。そういう時代なので、やっぱり震災のことは、福島県がきちっと立ち上げ、継続してやっていけるような形にしていきたいと思う。

#### 【平野直樹委員】

生涯学習基本計画の推進施策4点について、とてもよく練られている印象を持った。

基本目標については、私は案1の「誰でも」というところにとっても引かれ、案1がいいのかなというところで意見を書かせていただいた。

全体の説明を受けて感じたことは、事前にいただいた福島県の県民の生涯学習意識調査の中で、令和2年度と平成21年度の比較のグラフがあり、その中の県民の印象として、令和2年度のほうが、若干意識が低くなっているところである。これはコロナの影響で、外になかなか出られない、コミュニケーションがとれないというようなところから、低くなってきていると思った。でも、説明された4つの推進施策はとてもいい内容で現状把握をされていると思うので、細かくそれぞれを結びつけて、どのような手順で、計画の施策を立てていくのか、なるべく早くこの手順がうまくいくような形で進めていただければと思う。

#### 【長沼千恵委員】

生涯学習は、改めてこんなに幅の広い事業だと実感した。

その中で、学校教育のほうに寄ってしまうが、この推進施策3の「震災の記憶と教訓の伝承」に関連して、私の住んでいる下郷町の中学生3年生は、今度伝承館のほうに修学旅行として見学に行く予定になっている。会津地域は、震災や津波の経験がないので、伝承館の方の話聞くのは大変貴重な経験だと思う。今回たまたまコロナ禍で、修学旅行が県内になったことで、伝承館のほうに行くことになった。できればコロナが収まった後でも、子供たちがそういう震災の伝承という学びができるような事業があ

れば良いと感じた。私も震災の語り部の話を聞く機会があった。経験された方から聞く話は、テレビやビデオで見るとまた違う重みが伝わってきた。そういうことから、震災の講話などを、いろいろな地域で活発に取り入れていけたらいいと痛感した。

これは震災だけでなく、災害や防災にも関わると思う。その方のお話を伺った後、自分の震災のときのことを思い返した。「正常性バイパス」という大丈夫だという思い込みが、正しい判断を邪魔することがあることを痛感した。災害時に正しい判断ができるような教育が、子供たちだけでなく、大人にもできればいいと感じた。原発の避難を経験しているのは福島県だけなので、そういうところからの差別やそれに対する教育も必要なのだと感じた。

ICTやネットはパソコンを使うが、高齢者の方こそまさに必要で便利なので、もっとなじんでもらいたいと思う。コロナワクチン接種のネット予約も、本当は高齢者の方に使ってもらえれば、一番便利なのだと思う。皆さん出来ないで結局若い人に頼んで予約を取ってもらうことが近所でも多い。高齢者向けのIT講座が浸透すればいいと感じている。

#### 【生涯学習課長】

子どもたちに関する部分では、学校教育と連携した形でこの回答にも記載している。高校生が自ら語り部になって伝える事業や震災を自分で取材して記事にまとめて発表していくジャーナリストスクール事業も行っているので、引き続き推進していきたいと思う。

#### 【千枝浩美委員】

事前に資料を見せていただき、皆さんの意見を集約してまとめたことはとても大変なことだったと思う。

新たに検討していただいた目標から基本計画を立てていると思うので、これでいいと思う。その計画の項目ごとに内容を膨らませて、多くの福島県民が生涯学習に関わって、健康寿命を延ばして豊かに暮らせるように役立てていただけたらと思う。

私は、浜通りの相馬地区に住んでおり、本当に津波の被害が大きく、実家も流される等、目の前で被害の大きさを見た。そして、そのあとは原発事故があり、ほかの県では思いもしない農産物や畜産物に対する被害もとても多かった。そういうことも考えて、その大変なことを忘れないように今後も続けて、生涯学習のいろいろな場面で語り続けていってほしいと思う。本当に心が痛むことがある。10年たってもまだ帰ってこない方もいる。そういうことも含めて、推進施策3の「震災の記憶と教訓の伝承」は大事にしてほしいと思う。

#### 【鈴木道代委員】

資料を先に送っていただき、ゆっくり見ることが出来てよかった。委員の皆様の意見も送っていただいたので、それを見て皆さんが本当にいろいろ考えていることが、分かりとても参考になった。このような状況で、いろいろなことが変わってしまったり方向性が別になったりしたと思うが、それも踏まえつつ、将来を見通してまとめなければならなかったと思うので、とても大変だったと思う。

皆さんの意見を踏まえた基本目標が3つ挙げられている。最初はこれがいいというのはあったが、今回の目標を見ると、どれもよく見えるので、ぜひよいものをつくって選んでいただきたいと思う。案1については、これだけ句読点があるので、最後の丸が何となく気になったが、文章にしているからそうなのかと思った。そこはお任せするので、よろしく願いたい。

SDGsについて、内容を見ると今までもやっていることだと分かる。SDGsとアルファベットが並ぶと、何かピンとこない。一般の人たちはそうだと思う。研修会などで見たり聞いたりすると何か分かるが、分からない人も多いと思う。意識するのであれば、SDGsは何なのかというところから、分かるようにしていただかないと、分からない人がいっぱいいるのではないかと思う。若い人は分かるので、言葉としてもすぐ出てくるようだが、やはり年がいくほど分からないと思う。表面的に出ているわけではないのでいいのだが、もし使うのであれば、そこも分かるような方法があるともっといいのかと思う。

#### 【木暮照正会長】

SDGsに関して、横文字なので日本人の我々にとって、よく見るけど結局これ何の略だったのかと、ピンとこないかもしれない。以前あったミレニアム開発目標はあまり浸透しなかったが、SDGsに関してはマスコミが取り上げたので結構言葉としては周知されている。ただ結局何なのかというのは、確かに分からないという方もまだ多いのかもしれない。これは生涯学習の計画体系というよりは、県全体

として取り上げているものなので、そこでどうやってSDGsをPRしつつ、興味を持ってもらうか、そういった趣旨のコメントかと思う。県全体として検討はされていると思うが、その辺りを少し目配せしていただきたいと思う。

#### 【鈴木秀子委員】

まず、基本目標を見せていただいたときの感想だが、これは3つとも全然ステージが違う、対象として変わっていると思う。県民の今の状況や県として目指すところがどこなのかによって、決まってくると思って見させていただいた。

推進施策2の「地域づくりにつながる学びの推進」で、個人個人の生涯学習だけではなく、地域をよくするための学びということも意識しているということは、人と人との関係、それから社会まで広がっていくので、そうすると目指しているのは、もしかすると目標3なのではという感想をもった。

推進施策3の「震災の記憶と教訓の伝承」は、ただの伝承になってほしくないと思う。先日、県内の学会があり、そこである医大の先生が、震災後の状況と今これからの災害とも言えるコロナの対応の仕方に教訓があると話され、細かく説明していただいた。大きな災害のときは、これから生き抜くための教訓が必ずあるはずなので、そういった視点も含めて伝承をしていただくとよいと思う。

全体を通して感じるのは、学びたい人には環境をつくるというのが見えてくる。人は、学びたくなる人と、そのままの人がいるので、全世代の方が学びたくなる仕掛けをどこでつくるのかなというのが、疑問である。最近テレビで、福島各市町村を細かく取材して紹介する番組を見た。そうすると、近くにある市町村でも神社があり、そこには歴史があり、今こうなっているという説明があると、行ってこの地域のことを知ってみようと思ったりもする。それも多分一つの仕掛けになっていると思う。生涯学習に通じる、そういった学びたくなる仕掛け、子供たちは学校教育の中でやっていただくが、大人になった場合に、それをどこでやっていくのかということが、この計画に盛り込まれると期待したい。

ICTの活用では、リテラシー教育については多分に行っていると思う。高齢者にとってはICTってすごく便利である。それから障がい者にとってもとても便利である。ところが、障がい者の方が使う機器は、特別なものがあつたりするので、それを教育する人の人材が少ないとあるワークショップで聞いた。そういったことも意識していただけるとありがたい。

#### 【木暮照正会長】

今すぐそれに対してお答えすることは難しいが、学びたい人に学ぶための環境を整備しましょう、ただ学びたくない人はどうしたらいいのですかということところで、日本の目標は基本的に学ぶことは本人の意思決定に基づくので学ばせようっていうのはうたわないことになっているのだと思う。学校教育は別だが、調整出来ないものなので。

基本的には生涯学習に関しては、学びたい意欲はあるはずだから、それに期待して学びたい人に環境整備するという辺りを前面に出しているというように私は理解をしている。

ただ片や、ほっとけばいいわけではないので、学びたいはずであればその学びたいという意欲を引き出すような環境整備も必要であろうと言われると、なるほどと思うが、どうしたらいいと言われると、強制ではなくても自立的に学びに参加できるようにするというのは結局、ロールモデルしかない。多分にして、格好いい学び手がいって、ああなりたいと憧れて学び始めるということではないか。大体は、立派な人がいる、こんな人がいる、私はあれになりたいと思わせるような仕組みというのは、もしかしたらないと思うが、着目すればいろいろあるのかもしれない。

#### 【生涯学習課長】

きっかけづくりと、学ぶ敷居が高い場合はハードル下げるなどということもあるのかと、今、聞きながら思った。よく検討していきたい。

#### 【佐々木公一委員】

様々な話を聞いた上で、本当にこの内容自体がすばらしく出来ていると感じた。基本目標の部分に関しては、私もまだ原発からの避難者という立場で言わせていただくと、案1のどこにいてもという部分で非常に感銘を受ける。

防災減災に関する取組内容の「命を守る防災教育の推進」の部分で、震災を経験した私から言わせていただくと、これから、あの震災を知らない子供たちが増えていくかと思うので、伝えていかなければならないという話は、まさしくそのとおりだと思う。しかし、その伝え方に関しては、なかなか私たちも難しいと考えている。ここで話すことではないのかもしれないが、今、ICTやデジタル化も進んで

おり、ぜひその防災訓練という取組の一つで、まず子供たちがどのようなことに対して興味をもてるかを大切にしたい。一般の方々がどのようにしたら興味をもてるかとなると、やはり楽しみという部分が必要不可欠だというアンケート結果をいただいたことがある。楽しみながら防災減災を学べるような仕組みづくりが非常に大事だと感じている。そういった部分でパネルディスカッションをさせていただいたが、Zoomを活用した疑似体験の防災訓練ができるなど、様々なソフトや仕組みがある。そういったものに取り組んでいくと、防災に関してより鮮明に分かりやすくなると感じた。

SDGsに関して、青年会議所の事業自体も、全てSDGsにひも付けをしている。なぜかという、2019年に私たちの団体として、SDGsを日本一推進していくとしているので、やはりSDGsなくして、これからの日本の経済は発展していかないという部分も踏まえている。たとえば、懇親会で食べ残しをしない、これは食品ロスにつながるという簡単なところから行っている。一つ一つの項目施策に関して、一つ一つ当てはめてみると、もしかしたら分かりやすくなっていくと思うので、検討していただければと思う。

#### 【木暮照正会長】

柱立てに関して、細々としたこうしたらいいというような助言をいただいたが、大きく変えるべしというような意見はなかったように理解している。

基本目標のほうに関しても、これは事務局で一度引き取り、検討しつつ最終的には事務局と私のほうで相談させていただき次回の会議に案という形で一本化して提案することが現実的なところかと感じている。皆様から、また事務局のほうに、御意見御助言という形でちょうだいできればと思う。

今後の体系の取扱いに関しては、本日の御意見を今一度事務局でもんでいただいて、私と事務局で相談をし、次回までに、間に合えば事前に配布してということも検討したいと思う。

会長一任というか、こういうような取扱いということでしょうか。(異議なし)大変恐縮だが、次回の会議までも実はあまり間がないので、このような対応をとらせていただければと思う。ではこれをもって議事(1)が済んだが、皆さんから漏れているというような御意見があればいただきたい。(異議なし)

#### (8) その他について

- 事務局(渡邊生涯学習課長)より

新たな福島県生涯学習基本計画策定のスケジュールについて説明

#### 【生涯学習課長】

新たな福島県生涯学習基本計画策定のスケジュールを御覧いただきたい。第2回は、11月を予定している。第2回の審議会において、基本計画の素案を示し、その後、パブリックコメント実施を予定している。その後2月に計画の案を示して会長から答申をいただくという予定で進めたい。先ほど会長からもあったとおり、場合によっては事前に意見などを皆様から伺いながら、詰めていきたい。


#### 【木暮照正会長】

ただいまの事務局から今後のスケジュールに関して、このような段取りということで了解をいただきたい。

#### (9) 閉会

以上 議事録に相違ないことを証する。

令和3年 9月 30日

議事録署名人 熊ヶ谷 頼子 

議事録署名人 千枝 浩美 